

2011年度 学校自己評価シート (慶應義塾志木高等学校)

目指す学校像	独立自尊の気風を養い、自主性のある、品格の高い、明るい塾生を育成する教育を行う。
--------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇談会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎的な学問の習得 2 個性と能力をのばす教育 3 学校行事とクラブ活動の充実 4 開かれた学校づくりの推進
------	---

出席者	学校関係者	8名
	生徒	名
	事務局(教職員)	1名

学 校 自 己 評 価					
2011年度 目 標				2011年度 評 価 (2012年3月31日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況
1	将来、社会の各分野で先導者として活動するため、また慶應義塾大学に進学する前段階として基礎的な学問を習得させ、学問・研究の必要性を知らせるとともに、自主的に学習するように指導する。特に大学一般教育課程に応じた学習指導に留意し、学力の全体的向上を図る。	基礎的な学問を習得させ、学問・研究の必要性を知らせるとともに、自主的に学習するための指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> 各教科部会においてきめ細かい指導方針の確立と実践 必修科目、選択科目、多様な語学科目を充実させ、幅広い学問的好奇心等の要求に対応 	<ul style="list-style-type: none"> 教科責任者会議において情報共有化と学習指導方針の摺り合わせを図る。 	<p>【基礎的な学問の取得】</p> <p>・国語や社会の授業において、積極的に情報機器などを活用してレポートなどの創作指導を行ったり、研修・見学旅行などの校外学習を利用して日本の伝統文化への理解を深めたり表現力指導を行ったりして、図書館や収穫祭(文化祭)などにおいて発表を行った。</p> <p>・2009年度より、高大連携教育の一環として、大学理工学部1年生対象の数学授業を聴講できる制度が始まった。今年度3年生2名の希望者が聴講し、うち1名は合格レベルに達した。</p> <p>・2011年3月の東日本大震災による南三陸町の被災により、研修地を長野県諏訪市～新潟県糸魚川市周辺に変更し、水質調査・ジオパーク見学を中心に据えた生物・化学、地学・物理の実習を行った。</p> <p>・外国語授業において多読やbook reportの書き方などの語学力を高める指導を行ったり、第1学年と第3学年においてGTECを実施し大学授業への関心を高める動機付けを行った。</p> <p>・「樺」第20号を発行し、生徒に諸活動・諸作品の発表の場を提供し、教員はその指導を行った。</p> <p>【学問・研究の必要性】</p> <p>・4月～6月ギャラリーにおいて2011年度芸術B選択者による作品展示を行った。</p> <p>・選択社会C(第3学年次自由選択科目)では、法学的観点から見学旅行に合わせて水俣病裁判などのテーマを取り上げて学習し、その成果を収穫祭において展示発表した。</p> <p>【総合的な学習の時間】</p> <p>・総合的な学習の時間『箱根研修』における社会科ならびに家庭科教育の一環として、伝統的な地場産業であるかまぼこ作りの体験学習を行った。</p> <p>また、「理科」においては、事前指導ならびに現地における火山と地形に関する実習を行い、「体育」・「美術」の各教科においても、事前指導と現地の野外等での観察、実習、見学を行った。</p> <p>・総合的な学習の時間『語学課外講座』の教育の一環として、調理実習を通じ、各国の文化と伝統を学ぶ機会が多くあった。</p>

学校関係者評価	
実施日	2012年 5月19日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>・研修旅行後のレポート提出等、子供は真剣に取り組んでおりました。フィールドワークと研究を結びつける学習のあり方は大学における高等教育に準じる試みだと思っております。</p> <p>・理科の実験レポート、体育のレポート等、自分でよく調べ書いていました。大学で学ぶものに近いものでした。非常に良いと思います。古典では古事記を使用したり、特色あるものでした。また、英語では積極的に大学入試で使用する単語を覚えたりしてレベルの高い授業が伺えました。箱根旅行についても旅行ではなく文字通り「研修」であったと思います。</p> <p>・授業全体としては申し分ありません。ただ残念なことは自主的な学習が少ない事です。</p> <p>・5教科について自己学習ノートあるいは復習ノートの提出・確認を希望します。</p> <p>・『評価項目の達成状況』の『箱根研修』において、体育・美術と『野外等での観察、実習、見学』の相関がわかりづらいと感じました。</p>

学 校 自 己 評 価					学校関係者評価			
2011年度 目 標				2011年度 評 価 (2012年3月31日現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1					<p>【全体的な学習環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年通り、本校主催による学部説明会を実施したり、慶應義塾大学各学部主催による説明会・見学会や模擬授業が実施された。 ・すべてのホームルーム教室にAV機器を設置し、視覚・聴覚に働きかけるように授業の充実を図った。 ・「研究紀要」第42輯、「ことばと文化」第16号を発行し、教育、研究の発表の場を充実させた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進路について考える機会を増やす。 	<p>学校関係者からの意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜日登校が始まる一方で、午前中の休講時間が有る等、スケジュールのバランスに関して御一考願えればと思います。
2	現在の生徒数による教育の長所を生かし、教員と生徒との人間的接触につとめながら個性と能力をのばす特色ある教育を行う。	教員と生徒との人間的接触につとめながら個性と能力をのばす特色ある教育の実践	・クラス担任のみならず全教職員、医師、スクールカウンセラーによるきめ細かい指導の実践	・教員会議において生徒の現況の情報共有化と協力体制を図る。	<p>【特色ある教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアのToowoomba Grammar School との交流を開始するプロジェクトを始めた。 ・国語の選択授業では、農業高校時代からの伝統を生かし、米作り(二年目)を行い、日本文化の基盤である稲作に対する理解を深めた。 ・林業体験(=志木の森ツアー)を実施した。 ・2年生全員が国立劇場での歌舞伎鑑賞教室に参加した。 <p>【ストレスケア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年、教職員、医師、カウンセラーらがチームとなって、様々な問題を抱えている生徒に対応している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・2012年度よりオーストラリアの高校と短期交換留学制度を設け、生徒の派遣と受け入れを行う。 ・2012年度は文楽鑑賞教室を開催する予定。 ・本校生徒にみられる精神的成長(その過程で生じる不安感や悩みなども含む)の特徴を調査・分析し、今後の教育活動に活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも複数年をかけて達成するようなオーストラリアの交換留学等については、『始めた』というだけでは、達成度『A』は不適切と考えます。また、ストレスケアに対する『次年度への課題と改善策』の文章では、『調査・分析し』とありますが、これまで実施されていなかったか、対応が不十分であったこととなります。
3	生徒を多様な学校行事とクラブ活動等に参加させることにより、良好な人間関係や規範意識を育成し、積極的に心身の健康の増進を図り、リーダーシップを培う教育を行う。	生徒が自主的に学校行事、各人に適したスポーツ、アート、リサーチ、各種のプロジェクト等に参加するための指導の実践。	・学級担任会、生活委員会、体育部会・文化部会等においてきめ細かい指導方針の確立と実践 ・学校行事、体育系・文化系クラブ活動の選択肢の充実	・HR活動、生徒会活動、体育系・文化系クラブ活動においての適正な指導を図る。	<p>【多様な学校行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・教職員共にBLS講習会を実施し、日常生活の中での健康危機に即座に対応できるように努めた。 ・生徒会が、第2学年研修旅行先である、東日本大震災において被災した南三陸町への募金を行い、集まった約100万円を校長を通じて、南三陸町長と志津川漁協に手渡した。同様に生徒会が募金活動により、画材を購入し画板とともに約100セットを志津川小学校に寄付した。 ・学校行事を催すにあたり、生徒の自主的な活動をサポートする形で、自己表現と団結の時間と場所を共有することが出来た。 ・体育行事関連は例年通り、事故無く執り行うことが達成できた。さらに、全ての行事に関して内容の改善にはさらに工夫が必要である。クラスマッチの雨天時の対策、学年行事の充実化に課題が残る。 ・旅行、体育行事をはじめ、教員会議にて目的の確認、実施季節等詳細に改善策を議論し始めたので、近年中にはより良い方向へ向かうと思われる。 ・埼玉県赤十字血液センターの献血車を構内に招き、献血活動に協力した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理を徹底する。 ・スケジュール管理を徹底する。 ・実行委員の役職分担の見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動もそれなりの結果が伴い、文武を究めようとしている体制を評価します。リーダーシップの育成に心がけている考え方も共感できます。 ・運動部、文化部共に盛んに活動していて良いと思います。やはり、部活動の中が人間関係の構築やリーダーシップを養う最も良い環境であると思います。 ・『評価項目の達成状況』のクラブ活動において、『基本的な生活態度を整えることが出来た』とあります。しかし、本校の生徒としてふさわしくない姿勢・行動等を見受けられます。他生徒への影響も考慮して、適切な指導育成の継続をお願いいたします。

学 校 自 己 評 価					学校関係者評価		
2011年度 目 標				2011年度 評 価 (2012年3月31日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
3					<p>【クラブ活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動を通して、基本的な生活態度を整えることが出来た。縦の繋がりの希薄な世代において、上級生が下級生をしっかり指導し、統制をとることのできる環境作りが出来た。 ・マンドリンクラブは、2011年3月開催予定で、東日本大震災の影響により中止された第45回定期演奏会を、5月に延期して開催した。また、2012年3月には第46回定期演奏会を開催した。第48回関東高等学校マンドリンクラブの集いや第48回ALL KMC (慶應義塾マンドリンクラブ) コンサートに参加し、他の高等学校や大学などと交流を深めた。 ・器楽部が吹奏楽コンクールにおいて地区、県、西関東と代表として進み、東日本大会において銀賞を受賞した。 ・ワグネル・ソサイエティー男声合唱団が県、関東代表として全日本合唱コンクール全国大会に出場し、銅賞を受賞した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・入学時の活動時間に制限が是非とも必要である。 ・クラブ活動における事故対応について、現状より更に家庭との連絡を密にし、復帰後のケアを充実させる。 ・各クラブ活動の様子を、ホームページなどに掲載し、情報を充実させる。 ・各種コンクール・コンテストなどへの個人・グループでの応募を積極的に奨励していく。
4	ホームページ等で情報を有効に発信し、学校行事、学校施設等を開放するとともに、本校生徒が小学校、中学校、養老施設等を訪問し、交流を図る。	家庭、地域社会に対する積極的な情報の発信、オープンキャンパスの実施、生徒の積極的な地域活動への参加	・各委員会の連携と内容の充実	・教員会議において活動状況の情報共有化と協力体制を図る。	<p>【広報活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正門脇に設置した掲示板により、「校内自然観察会の案内」、「緑の羽根募金の結果」などを掲示し、地域住民の方々へ情報を提供した。 ・卒業生・在校生の協力を得ながら「学校案内」の全面リニューアルを行い、「学校案内2012」を刊行した。 ・公式ホームページの全面リニューアル作業を計画・継続中である。 ・PTA総会、学校説明会、保護者会を例年どおり行った。 ・福島第一原子力発電所の放射能漏えいが発覚した直後、3月22日より、放射線量計を用いた独自の計測を開始し、校内における生徒の活動に支障が出ることがないか、監視に努めた。また、水泳授業の実施に不安を訴える保護者に対して、調査範囲を広げた上で保護者会、PTA総会などでの情報公開に努めた。 ・2011年11月より、モニタリングポストの設置により、放射線量計測を自動化するとともに、計測値をweb上で誰もが見られるような形にして、情報公開に努めた。 <p>【授業に絡めた地域理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種小論文コンクール等への参加や出品を、積極的に行った。 <p>【クラブ活動を通じた地域交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器楽部が志木市立志木小学校にて、3・4年生の学年行事として演奏会を行った。 ・器楽部が「第13回定期演奏会」(3月18日、志木市民会館)を開催、地域の方々を中心とした800名近くの来客があった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校掲示板(正門脇)の有効活用を議論し、実施する。 ・広報活動をより活発にして、学校行事に限らず、さらなる情報の発信を図る。 ・「学校案内」の定期的な更新を行う。 ・公式ホームページの内容や更新頻度の見直し、公式ホームページのニュース欄を利用した各種行事、部活動の戦績などの積極的公開に向けての仕組みづくりを行う。 ・各行事などの報告をホームページに、より詳細に載せる。 ・クラブ活動報告などを各クラブのホームページに載せる。
					学校関係者からの意見・要望・評価等		
					実施日 2012年 5月19日		
					学校関係者からの意見・要望・評価等		
					<ul style="list-style-type: none"> ・学校が地域の中心となって文化活動に取り組む考え方は「産学」や地域交流に繋がる発展を感じます。是非、社会を意識した教育のあり方を実践して頂きたいと思えます。 ・非常に良い地域交流を行っていると思います。教職員及び生徒は学年・クラスを越えて、1チーム6-10人程度で分け、2-3時間、地域(志木駅周辺、朝霞台、柳瀬川・朝霞・新座駅など)を分割して街頭ゴミ(空き缶、ペットボトル、吸い殻、ガムなど)拾いを実施したらどうでしょうか? 持ち物は軍手・ゴム手袋、ゴミ袋、ハンカチ、飲料水、服装は体操着。実施日は授業に影響の無い夏休み・冬休みの一日。(可能な場合、家族も参加する。)生徒にとっても良い経験となり、チームごとにゴミ拾いをしながら自己紹介、会話を楽しみながら行うのも良い交流となります。(トイレは事前に済ませておく、途中休憩を2~3度入れる) 		

学 校 自 己 評 価				
2011年度 目 標			2011年度 評 価 (2012年3月31日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
4				<p>・ワグネル・ソサイエティー男声合唱団が中学校の3年生を送る会での招待演奏、埼玉県おかあさんコーラス大会でのゲスト出演、ホテルでのロビーコンサートなど地域との交流をはかった。</p> <p>【学校行事を通じた地域交流】</p> <p>・収穫祭(文化祭の名称)において、校長を始めとする複数の教員による模擬授業を行い、一般の方々にも授業に参加して体験していただける機会を設けた。また、生徒会ブースでは、高校生の視点で本校に対する質問コーナーを設け、一般の方々に本校への理解を深めていただける機会を設けた。</p> <p>【学校施設を利用した地域交流】</p> <p>・2011年3月の東日本大震災発生時、学校に在勤の教職員と協力し、帰宅困難となった生徒、試合観戦で来校の保護者ならびに不安を訴える近隣の住民の方に校舎の一部を開放し、休憩場所を提供した。また、乾パン、飲料の配布も行なった。</p> <p>・近隣(志木市、朝霞市、新座市)在住の方々を対象とした校内自然観察会を5月と9月の2度開催し、105名の参加を得た。これにより、3年間での累計参加者数は550名を超えた。</p> <p>・本校に場所を提供しどんぐり拾いを行い、近隣小学生が参加した散策会(どんぐり拾い他)用にプリント(どんぐり地図)を作成して支援した。</p> <p>・教員個人レベルでは地域との活動はあったと思うが、学校全体としてはより工夫が必要である。</p>
				<p>評価項目の達成状況</p> <p>達成度</p> <p>次年度への課題と改善策</p>

学校関係者評価
実施日 2012年 5月19日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>・『評価項目の達成状況』の最後の件で、『学校全体としてはより工夫が必要』とする理由・背景をご説明ください。『次年度への課題と改善策』の最後から2つ目と最後の件で、『地域にオープンしていく』『開放について不十分な面もある』とありますが、関係者以外立入禁止等、セキュリティに関しては社会全体として意識を強めている昨今、生徒の安全を第一に考えるべきです。開放等については、セキュリティに関する対応を併行又は事前に行うべきと考えます。『次年度への課題と改善策』の最後から2つ目の件で、『本校が地域の文化的拠点となるような方向で設備を整備していくことを考えるべき』とあります。この考え方はわかりませんが、まずは生徒のための設備を考えるべきです。</p>